

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

# みやぎの

# 4月号

# 農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。  
応援します。農業普及

## NEWS LETTER No.206 2024.5

紹介内容（3/1～3/31）

### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 大河原農改：令和5年度仙南地域農業経営セミナーが開催されました！
  - 気仙沼農改：中小企業診断士による農業法人の現地相談会を開催しました
  - 美里農改：水稲中干し延長によるカーボンクレジットでの収益化を学ぶ
  - 亘理農改：J A 名取岩沼担い手向け農作物栽培講習会で地域計画、RTKシステム、みどり認定について紹介しました
  - 気仙沼農改：中小企業診断士による農業法人の現地相談会を開催しました
  - 気仙沼農改：枝もの用クロマツの育苗研修会を開催しました
  
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  - 美里農改：第2回美里4Hクラブ視察研修会を開催しました
  - 登米農改：みやぎ農業未来塾「新規就農者向け簿記研修会」を開催しました！
  - 登米農改：農業女子会～同世代農業女子と繋がろう！～を開催しました！
  - 美里農改：新規就農者向け農業機械研修会を開催しました
  - 亘理農改：名取市下余田2期地区ほ場整備事業活性化推進委員会拡大役員会が開催されました
  - 仙台農改：根白石地区の地域計画策定に向けた協議の場が開催されました
  - 美里農改：美里地区生活研究クラブ連絡協議会が研修会と令和6年度通常総会を開催しました
  - 仙台農改：茨城県稲敷地域青年農業士が管内視察に来訪されました
  - 美里農改：第2回美里地域農業普及活動検討会を開催しました
  - 大河原農改：みやぎ農業未来塾「若手農業者経営管理講座（特別講座）」を開催しました
  - 気仙沼農改：農業経営力向上研修会を開催しました
  - 美里農改：「美里地区女性農業者キャリアアップ研修会～働きやすい職場づくりとは～」を開催しました
  - 気仙沼農改：令和6年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会通常総会と地域食材活用講習会が開催されました
  - 石巻農改：選ばれ続ける会社への第一歩！「魅力あふれる職場づくりセミナー」を開催しました！
  - 亘理農改：女性農業者ステップアップ講座「学んで、食べて、作って、まるごと大豆セミナー」を開催しました
  
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - 気仙沼農改：農業用ドローンの活用に向けた相談会を開催しました
  - 美里農改：町内産堆肥で黄金色の麦浪をつくろう！
  - 美里農改：美里町の農事組合法人みらいす青生で、ほ場管理システムの研修を行いました！

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>  
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 仙 台農改：令和5年度にんにく産地視察研修会を開催しました
  - 仙 台農改：利府梨部会で新品種・新技術に関する研修会を開催しました！
  - 大河原農改：いちじくせん定講習会が開催されました
  - 亘 理農改：JA名取岩沼ハウス胡瓜部会・促成胡瓜現地検討会が開催されました
  - 大 崎農改：大崎地域花き研修会を開催しました
  - 登 米農改：JAみやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました
  - 登 米農改：「本州のポテト王国 登米」を目指して研修会を開催
  - 仙 台農改：いちご新品種の食味アンケート調査を実施しました
  - 大河原農改：加工用柿研修会が開催されました！
  - 大河原農改：村田町でそらまめの栽培講習会が開催されました
  - 登 米農改：令和6年度加工用ばれいしょ栽培に向け、講習会が開催されました
  - 気仙沼農改：「南三陸大粒(おおつぶ)ぶどう協議会」の総会が開催されました
  - 石 巻農改：間もなく出荷！河北の「葉せり」 現地検討会開催！
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 大 崎農改：先進地の現地視察を行いました
  - 石 巻農改：石巻河南地区で麦の現地検討会が開催されました！
  - 仙 台農改：大豆講習会が開催されました
  - 栗 原農改：JA新みやぎ栗っこ米(こめ)3部会通常総会・米づくり研修会が開催されました
  - 登 米農改：大豆種子生産物審査が終了しました
  - 石 巻農改：令和6年度乾田直播栽培講習会が開催されました！
  - 登 米農改：稲作講習会で育苗のポイントを説明しました
  - 栗 原農改：令和5年度「だて正夢」「金のいぶき」栗原地域栽培塾を開催しました！

## 2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 大 崎農改：キク親株管理研修会を開催しました
  - 気仙沼農改：「大島かぶ」を使った新商品が完成しました！
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 大河原農改：角田市ふるさと安心米生産組合協議会総会が開催されました！
- ③ 大規模自然災害等からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 石 巻農改：長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現に係る成績検討会を開催しました

## 4. その他

- ① 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 亘 理農改：令和5年度第2回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました
  - 大河原農改：気候情報の活用促進に向けたセミナーを行いました

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○令和5年度仙南地域農業経営セミナーが開催されました！  
令和6年3月1日  
大河原農業改良普及センター



令和6年2月28日に大河合同庁舎で、農業法人や認定農業者を対象に、Z世代や女性を今よりも積極的に従業員等として迎え入れ、また、従業員等の定着率の向上を図るため、セミナーを開催しました。

「職場における人間関係の築き方 ～従業員への効果的な関わり方・指示の出し方～」と題し、ワッツ・ビジョン代表の笹崎久美子氏を講師として、「若者世代への対応の基礎知識」「世代間ギャップを埋めるコミュニケーション方法」・「従業員への効果的な接し方、指示の出し方」、「従業員の定着率の向上に必要なこと」などについて、ご講演いただきました。

参加者からは「コミュニケーションをとる練習もあって楽しかった」、「事例を交えた説明で分かりやすかった」、「指導モードではない話の聞き方が大切だと気づけた」などのコメントがあり好評でした。

普及センターでは、引き続き人材の確保・育成など農業経営への支援を続けてまいります。

○中小企業診断士による農業法人の現地相談会を開催しました  
令和6年3月1日  
気仙沼農業改良普及センター

令和6年2月8日、気仙沼合同庁舎会議室を会場に普及センター主催で農業法人への経営・事業承継に関する現地相談会を開催しました。

みやぎ産業振興機構の協力で、農業分野に詳しいすずき労務経営コンサルタンツ代表鈴木大輔氏（中

小企業診断士・社会保険労務士・行政書士）をアドバイザーとして派遣してもらい、気仙沼管内で枝もの用クロマツを栽培している株式会社南三陸 Pine Pro（以下、パイナップロ）に対し、経営内容の確認、事業承継の方策について専門的なアドバイスをいただきました。



パイナップロからは、「実は会社とは別に個人で切り花のきく栽培を行っており、会社と統合しようと考えている」と相談があり、鈴木アドバイザーからは「会社と家業を統合するならば、どちらも収益がある状態が望ましい。会社はいざと言う時に手放すことができるが、家業を統合していると、その後生活できなくなる」と将来を見越した助言があり、パイナップロも納得していました。パイナップロの決算が2月末ということで、最新の令和5年度収支が分かったら、3月にまた現地相談会を開催するとして終了しました。

普及センターでは今後も専門家と協力しながら農業法人の経営安定化に向けて支援していきます。

○水稲中干し延長によるカーボンクレジットでの収益化を学ぶ  
令和6年3月5日  
美里農業改良普及センター



令和6年2月2日に、美里地区農業士会は美里農業改良普及センター会議室で「令和5年度美里地区農業士会第2回研修会」を開催し、会員等20人が水稲中干し延長によるカーボンクレジットでの収益化について学びました。

始めに、宮城県農政部農業政策室黒沢班長から、2030年を目標に農林水産業における温室効果ガス排出量の削減を進めている「宮城県みどりの食料システム戦略推進ビジョン」について概要を説明していただきました。

次に、株式会社フェイガー農業責任者後藤明生氏から「稲作でのカーボンクレジットによる収益化の取組」と題して講演していただきました。世界の潮流では、地球温暖化対策として温室効果ガス削減に向けた技術革新が進められており、企業は排出量削減の不足分をカーボンクレジットとして買い取りして

おり、日本でも 2023 年から J-クレジット認証制度が始まっています。株式会社フェイガーは水稻中干し延長によるメタンガス発生量の抑制、J-クレジット認証等の実務を代行し、収益化を支援しているとのことでした。

最後に、JA 新みやぎみどりの統括営農センター木村氏から、美里町の水田約 40ha で取り組んだ水稻中干し一週間延長による J-クレジットについて、農家等と協力し、水田一筆毎の水深測定や写真撮影、書類整理などを行った苦労話を交えながら具体的な事例を紹介していただきました。

参加者は、地球温暖化対策としての温室効果ガス削減、水稻中干し延長によるカーボンクレジットでの収益化について理解を深めることができ、有意義な研修となりました。

### ○JA 名取岩沼担い手向け農作物栽培講習会で地域計画、RTKシステム、みどり認定について紹介しました 令和6年3月14日 巨理農業改良普及センター



令和6年2月14日(水)、岩沼市民会館において JA 名取岩沼担い手認定農業者及び生産法人組織向け農作物栽培講習会が開催されました。この講習会は、技術情報の提供や営農に役立つ最新の情報提供を目的に新たに始まった取組であり、当所でも企画段階から協力をしてきました。

当日は、70 人の参加があり、関心の高さが伺われました。「水稻栽培における高温障害を緩和する栽培方法について」では、古川農業試験場作物栽培部より既存の基本技術の組合せによる対策や乾田直播栽培の作業分散技術等について情報提供がありました。

当所からは、地域計画の作成に向けた各地区での動きや取組の要点について、RTKシステムの管内導入者の声の紹介、みどり認定申請の要点等について情報提供をしました。

当所では、引き続き管内 JA と連携し、気候変動対策や最新の情報提供について取り組んでいきます。

### ○中小企業診断士による農業法人の現地相談会を開催しました 令和6年3月25日 気仙沼農業改良普及センター

令和6年3月18日、普及センター主催で農業法人の経営に関する現地相談会を開催しました。

2月8日に開催した第1回の相談会に引き続き、農業分野に詳しいすずき労務経営コンサルタント代表鈴木大輔氏(中小企業診断士・社会保険労務士・行政書士)をアドバイザーとして迎え、気仙沼管内で枝もの用クロマツを栽培している株式会社南三陸 Pine Pro (以下、パインプロ)に対し、経営内容の分析や資金繰り予測に基づく経営管理、損益分岐点に基づく売上目標の設定などについて専門的な助

言をいただきました。



パインプロの「栽培効率や収穫歩留まりを重視して3年周期で栽培していく想定である」という方針に対して、鈴木アドバイザーからは「売り上げに関わる重要な経営判断なので、きちんと試算を行って選択するとよい」と助言がありました。また、「固定費や変動費を基に損益分岐点を把握し、目標利益に応じた売上を設定しながら、中長期的な計画で利益を上げていくことが重要である」という説明にパインプロも納得し、今後は経営分析や資金繰りの予測などをこまめに行いながら経営を発展させていくという意識を新たにしていました。

普及センターでは今後も専門家と協力しながら農業法人の経営安定化に向けて支援していきます。

### ○枝もの用クロマツの育苗研修会を開催しました 令和6年3月28日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年3月14日、南三陸町において、みやぎクロマツ生産拡大連携協議会、宮城県の共催で、枝もの用クロマツ育苗研修会を開催しました。

今回の育苗研修会では、令和5年5月に播種して育てたクロマツの苗を別のほ場に定植するために苗掘り取り作業と定植方法について実演と作業体験を交えて行いました。

参加者は、講師として株式会社南三陸 Pine Pro の後藤夫妻、クロマツ研究会員 15 名、県関係者 5 名の合計 22 名でした。

クロマツ苗を掘り起こすためのトラクター作業、ほ場から苗を抜き取る作業を見学し、参加者も実際

に苗の抜き取り作業を体験しました。

また、抜き取った苗を使って、参加者に実際の定植作業を体験してもらい手法を学んでいました。

宮城県内でクロマツの苗を定植するのは、苗の新芽が活発化する4月20日頃が限界とされており、苗の掘り起こしと定植を自分たちで行うクロマツ研究会は、ノウハウを自分のものにしようと、真剣に話を聞き、作業を体験し、疑問点は何度も後藤夫妻に聞いていました。

県では今後も枝もの用クロマツの生産拡大に向け、研修会や先進地との情報交換会などを開催していきます。

## ②新たな担い手の確保・育成

### ○第2回美里4Hクラブ視察研修会を開催しました 令和6年3月10日 美里農業改良普及センター



美里4Hクラブは、美里農業改良普及センター管内の若手農業者から構成され、クラブ員同士の技術研鑽や情報交流を目的に様々な活動に取り組んでいます。その活動の一環として、令和6年2月16日に視察研修会を開催しました。

最初に、株式会社石ノ森農場（登米市）を訪問し、

代表取締役 山内健太郎さんから、きゅうりの施設栽培や、ICTを活用した環境制御システム、人材育成や組織運営について説明いただきました。

次に、有限会社伊豆沼農産（同市）に移動し、取締役 佐藤裕美さんから、豚肉の生産や加工販売、ソーセージ作り体験などの誘客事業、地域農村と協力した観光事業への取組みについての説明を聞いた後、実際にソーセージ作りを体験しました。

今回は、生産から販売、組織運営のほか地域活性化の取組まで、幅広く学ぶことができ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も地域農村青年の技術研鑽や情報交流を支援し、地域農業の担い手の確保及び育成に取り組んでいきます。

### ○みやぎ農業未来塾「新規就農者向け簿記研修会」を開催しました！ 令和6年3月1日 登米農業改良普及センター



令和6年2月13日～22日にかけて、登米合同庁舎で「新規就農者向け簿記研修会」を4日間にわたって開催し、新規就農者9人が参加しました。

本研修会は、自らの経営状況を的確に把握するツールとして複式簿記をマスターすることを目標に開催し、普及センター職員が講師となって仕訳から決算修正、試算表の作成などの複式簿記の基礎的な知識について講義しました。

今回は、複式簿記の流れを理解してもらうため、あえて手書き作業での研修を行いました。複式簿記の本質的な意味や取引の内容への理解を深めることができたのではないかと思います。

当普及センターでは、今後も新規就農者を対象に研修会等の開催や個別巡回による支援を実施していきます。

### ○農業女子会～同世代農業女子と繋がろう！～を開催しました！ 令和6年3月1日 登米農業改良普及センター

次代を担う女性農業者間の情報交流ネットワークを構築することを目的に、令和6年2月26日に「農業女子会～同世代農業女子と繋がろう！～」を開催し、管内の20代～30代の若手女性農業者5人が参加しました。

第一部では、南三陸町の若手女性農業者である、大沼農園園主大沼ほのか氏と合同会社でんでんむしカンパニー代表中村未来氏のお二人を講師に迎え、就

農のきっかけや現在に至るまでの歩み、今後の事業計画等について講話いただきました。



第二部では、講師を囲んで情報交換会を行いました。各参加者から農業における悩み事や関心事について語り合いました。特に、子育てと農業の両立が難しいこと、人材確保や各品目の栽培方法についてお互いの状況を聞き合うなど、悩み事を共有することができました。

当普及センターでは、今後も研修会等を通じて、女性農業者を支援していきます。

### ○新規就農者向け農業機械研修会を開催しました 令和6年3月4日 美里農業改良普及センター



新規就農者等の農業生産技術向上と農作業安全意識啓発を目的として、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社の協力のもと、農業機械研修会を開催し、美里管内の新規就農者等6人が参加しました。

初めに、稲刈りや耕起等の効率的な作業のコツについて講義が行われ、参加者は普段の自分の作業方法と比較しながら熱心に説明を聞いていました。

次に、トラクターの基本操作の実習では、講師の指導のもと一人一人トラクターに乗り、正しい操作方法について学ぶとともに、安全なアタッチメントの着脱方法を実演しました。まだ機械操作に不慣れな参加者もいましたが、操作のポイントを学ぶことができ、有意義な実習となりました。

最後の農作業安全の講義では、農作業事故の事例や農業機械に関する法規について説明がありました。

研修を通じて、参加者は多くの知識を習得するとともに、研修の合間に参加者同士で積極的に情報交換するなど、交流を深めることができました。

### ○名取市下余田2期地区ほ場整備事業活性化推進委員会拡大役員会が開催されました 令和6年3月6日 巨理農業改良普及センター



令和6年2月26日名取市下余田2期地区において、ほ場整備事業活性化推進委員会拡大役員会が開催され、21人の役員が参加しました。

平成30年にはほ場整備事業活性化推進委員会を設立し、ほ場整備事業の令和6年度事業採択を目指し話し合いを重ねてきました。採択後も委員や会の名称は継続し、促進計画に基づいた農地集積・集約や園芸益作物の収益性向上を具体的に進めていきます。円滑に進めるためには、地区の方一人一人が促進計画の内容を理解し取り組むことが重要であり、拡大役員は、会議で話し合われた内容を地区の方一人一人へ繋ぐ大切な役割を担っています。

会議では採択後のスケジュールやほ場整備事業に関するソフト事業の内容などが話し合われ、出席した役員からは「農地集積・集約が計画通りにできるよう協力していきたい」との意見が出されました。

普及センターでは、関係機関と連携しながら地域農業の発展と担い手育成を引き続き支援してまいります。

### ○根白石地区の地域計画策定に向けた協議の場が開催されました 令和6年3月7日 仙台農業改良普及センター



1月11日、18日、2月8日の全3回、JA仙台根白石支所において地域計画策定に向けた協議が行われました。地域の担い手生産者を対象に、仙台市地域計画策定推進担当職員が事務局となつて行われたもので、普及センターのほか、JA仙台、農業委員会、農地利用最適化推進委員及び、農地中間管理機構コーディネーターが参集され、株式会社ノースエイムの宮村昌吾氏をファシリテーターに迎え、ワークショップ形式で実施されました。

第1回では、地域のグループごとに分かれて、資金・土地・労働力の観点から効率的な農地利用に向け

たアイデアを出し合い、それをまとめて発表することで、地域内で考え方を共有しました。普及センター職員は、サブファシリテーターとして参加し、個人がアイデアを出しやすい環境作りを行いました。

第2回では、現況地図において離農や規模縮小の予定がある農地について、記入し、土地を明確に分類していく作業を行いました。普及センター職員も、話し合いに参加し、コミュニケーションが円滑に行われるようサポートしました。

第3回では、農用地の効率的かつ総合的な利用に向けて、集約して耕作を行うことが必要であることを踏まえて、意見交換を行いました。また、第2回に引き続き、現況地図においてエリア毎に耕作予定者を決めていく作業をしました。

今回の協議は、地域計画策定に向けた大きな一歩となり、地区内での農地の利用についての話し合いもスムーズに進行しました。普及センターでも、今後の進捗状況を把握するとともに、適宜アドバイスをしながら、地域計画策定を支援してまいります。

### ○美里地区生活研究クラブ連絡協議会が研修会と令和6年度通常総会を開催しました 令和6年3月8日 美里農業改良普及センター



美里地区生活研究クラブ連絡協議会（会員 34 人）は、令和 6 年 3 月 4 日、美里農業改良普及センターを会場に、令和 3 年 6 月 1 日に施行された改正食品衛生法に関する研修会と令和 6 年度通常総会を開催し、15 人が参加しました。

研修会は、法律改正によって営業許可業種が見直され、その経過措置が令和 6 年 5 月 31 日に終了することに伴い、新たに許可が必要となった「漬物製造業」などについて、「営業許可制度」と「営業届出制度」の概要について、県北部保健福祉事務所の担当者を講師に学びました。

取り組んでいる農産加工品目について、求められる対応等を再確認するとともに、HACCP の考え方を取り入れた衛生管理と食品表示のポイントについて説明いただきました。

参加者からは、複数の業種にまたがって農産加工に取り組む場合の考え方や、届出の方法など、活発に質問をしていました。

また、研修会終了後に開催された令和 6 年度通常総会では、令和 5 年度事業内容及び収支決算の報告を行うとともに、令和 6 年度事業計画等の協議を行いました。

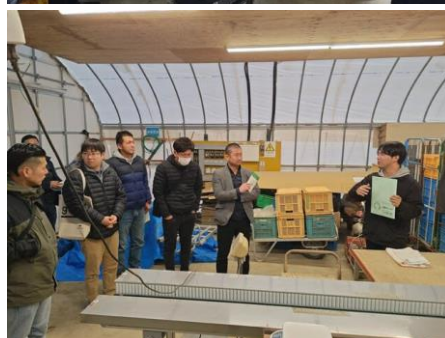
美里地区生活研究クラブ連絡協議会は、令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症による行動制限がなくなって以降、対面での活動を再開させてきましたが、令和 6 年度も引き続き技術向上講座や商品づくり研修会、移動研修会等の開催を予定しており、活

発な情報交換・技術研鑽が期待されます。

普及センターでは、美里地区生活研究クラブ連絡協議会の活動を支援し、農山漁村のより良い生活や地域の活性化に向けて取り組んでいきます。

### ○茨城県稲敷地域青年農業士が管内視察に来訪されました 令和6年3月 11 日 仙台農業改良普及センター

令和 6 年 2 月 21、22 日の 2 日間にわたり茨城県稲敷地域青年農業士会会員 8 名が仙台普及センター管内に視察研修で来訪されました。普及センターでは 1 日目に大郷町の青年農業士である上杉氏と西塚氏を 2 日目は仙台市の農事組合法人仙台イーストカントリーをそれぞれ視察先としてご案内しました。



視察に訪れた青年農業士の方々はいずれもすでに経営主となっており、地域農業の中心経営体として活躍しているとのことで、皆熱心に視察研修に臨んでいました。質問も積極的で視察先の方々との意見交換も盛んに行われ、それぞれの農業経営の向上に対する意識の高さがうかがえました。

### ○第2回美里地域農業普及活動検討会を開催しました 令和6年3月 12 日 美里農業改良普及センター

令和 6 年 2 月 6 日（火）、普及活動検討委員 6 人に出席いただき、第 2 回美里地域農業普及活動検討会

を美里農業改良普及センターで開催しました。

はじめに、令和5年度のプロジェクト課題について、活動内容や成果を説明しました。

課題1では、大崎市田尻の農事組合法人を対象に経営管理研修や先進経営体視察、高収益作物導入支援を行い、経営計画の見直しやさつまいも等導入など持続的経営への展開が図られました。



課題2では、美里町の5法人を対象に加工業務用になじみの栽培技術や品種検討、販路開拓を支援し、栽培技術の向上と複数法人によるリレー出荷を実現しました。

課題3では、涌谷町の麦類生産者を対象に町内産堆肥の有効活用等による麦類の収量品質向上について支援し、小麦の生育中の堆肥散布による収量向上の可能性が示されました。

次に、令和6年度の新規課題について、美里町「北浦梨」の産地活性化に向け、気象経過や栽培管理などをICTを活用してデータや画像で「見える化」し、若手生産者等の技術習得を支援する計画です。

委員からは、「農協としても水田フル活用による農業所得の向上に向け、普及センターと連携して露地野菜を振興したい。」「農業法人の弱点は給料の確保、経営継承での人材育成なので、経営管理や収益確保など引き続き支援してほしい。」「堆肥は麦に限らず、大豆など土地利用作物の収量品質向上に役立ててほしい。」「北浦梨のICTを活用した技術継承は良いモデルになると思う。」などの意見をいただきました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決を図るため、外部委員の意見や評価を参考にしながら、令和6年度の効率的な普及指導活動に向け、取り組んでまいります。

### ○みやぎ農業未来塾「若手農業者経営管理講座(特別講座)」を開催しました

令和6年3月18日

大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、新規就農者を含む若手農業者が経営の計数化を通して経営改善を図るよう、みやぎ農業未来塾「若手農業者経営管理講座」を開催しています。

11月に複式簿記による会計管理目的とした研修会を2回開催したところ、複式簿記記帳を開始し、今年より青色申告に取り組む農業者が増えてきました。

さらに決算書を税務申告だけでなく経営改善に活用することができるよう、3月8日に特別講座を開催し、9人が参加しました。

講師をお願いした株式会社YACコンサルティング古高伸一常務取締役からは「決算書の読み方と儲ける経営のポイントについて」をテーマに、決算書から経営改善に取り組む際の考え方について講義いただきました。

研修後参加者からは「複式簿記記帳を行っていたが、それが決算書となり経営改善や財務状態を見る成績表となることが理解できた。」「集計を年に一度申告のために行うのではなく、経営状況を把握するためにもっと短いスパンで行いたい」といった感想が出されました。

普及センターでは若手農業者が会計管理を通して経営改善につなげることができるよう、研修のフォローアップを行ってまいります。

### ○農業経営力向上研修会を開催しました

令和6年3月19日

気仙沼農業改良普及センター



令和6年3月18日、気仙沼地区みやぎ農業未来塾及び女性農業者研修会として、農業経営力向上研修会を開催したところ、認定新規就農者等3名及び関係機関から3名が出席されました。

講演では、講師の平松農園の代表 平松希望様から「非農家からの地域密着型新規独立就農」と題し、地域に根差した農業の取組を紹介いただきました。その後、講師を囲んで交流会を開催し、地域との繋がりがりづくりなど自由に意見交換を行いました。

出席者が少なかったものの、予定時間を過ぎるほど活発な交流が行われ、有意義な研修会となった様子でした。

普及センターでは、今後も担い手の育成に向けて支援していきます。

### ○「美里地区女性農業者キャリアアップ研修会～働きやすい職場づくりとは～」を開催しました

令和6年3月21日

美里農業改良普及センター

農業者の高齢化や人口減少による労働力不足が課題となっており、持続可能な農業経営・生産を行って



いくための「多様な人材が活躍できる体制づくり」が急がれています。

そこで、株式会社一莓一笑の佐藤拓実代表取締役を講師に、女性を中心とした農場運営の実践事例を通して、従業員が働きやすく、自主的に行動する職場環境や体制づくりについて学び、考える研修会を3月13日に美里農業改良普及センターを会場に開催しました。



はじめに、「女性のみで運営するいちご農園～働きやすい環境整備とアイデアに耳を傾ける経営～」と題して、平成30年1月に仙台市内に開園した観光農園における取り組みを中心に事例を紹介いただきました。

仙台農場は、段差が少なく台車移動しやすいコンクリート製の床や、常設の多目的トイレ・更衣室等が整備されているなど、設計段階から「女性のみで運営する」ことを考えて作られたとのことでした。また、いちご栽培未経験者や子育て中の人が働きやすいよう、ICTを活用して山元農場から遠隔で栽培環境等が確認できるシステムの開発や、従業員のニーズに応じた勤務体制の実現など、ハード・ソフトの両面で「働きやすい」環境整備が行われています。

さらに、従業員会議等で提案・取りまとめた意見・要望をほぼ全て反映させるとともに、佐藤代表取締役から従業員に対して要求を伝えるなど、相互の関係づくりに取り組んでいるとのことでした。

次に、普及センター職員がモデレーターとなり、事例紹介の内容についての質疑応答や意見交換を行うトークセッションを行いました。参加者からは「収穫・選果・出荷アプリなど、新しい業務やしきみを導入する際の従業員の反応は？（どのように円滑にすすめているか？）」や「女性のみ又は女性が大多数を占める職場で注意している点は何か？」といった質問やそれぞれの経験に基づく意見が出され、時間が足りないほどでした。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて女性農業者を含む多様な担い手の確保と資質向上及び活躍を支援します。

### ○令和6年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会通常総会と地域食材活用講習会が開催されました

令和6年3月27日

気仙沼農業改良普及センター

令和6年3月14日、令和6年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の通常総会が開催され、グループ員22名が参加しました。役員改選など上程された4議案すべてが承認され、新しいスタートを切りました。



総会終了後には地域食材活用講習会が開催されました。グループ員が講師となり、「気仙沼いちご」を使ったいちご大福の調理実習を行いました。いちごを餡や餅で包む工程では、まとまらず苦勞したようですが、講師からの指導をもとに綺麗に完成させました。グループ員からは、「意外と簡単に作れる」、「おいしい」といった声が聞かれ、楽しい講習会となりました。

### ○選ばれ続ける会社への第一歩！「魅力あふれる職場づくりセミナー」を開催しました！

令和6年3月27日

石巻農業改良普及センター



令和6年3月6日にいしのまき農業協同組合農業情報センターで「魅力あふれる職場づくりセミナー」を開催したところ、農業法人・関係機関計19人の参加がありました。

セミナーでは、有限会社かさい農産 代表取締役

会長 葛西信昭氏と生産部主任 加藤茉莉子氏及び株式会社デ・リーフデ北上 阿部淳一総務部長に御講演いただき、その後パネルディスカッションで話を深めていきました。

有限会社かさい農産では、柔軟な勤務体系の構築や、誰かが急に休んでも対応できる「多能工化」を取り入れて、従業員が働きやすい職場環境の整備について紹介いただきました。さらに株式会社デ・リーフデ北上では、従業員に様々な仕事を経験してもらい各自に合った業務とのマッチングを重要視しており、また指示を待つのではなく、自ら考えて行動できるよう数字を「見える化」して作業管理を行っていることなどをお話いただきました。

パネルディスカッションでは、作業の指示の方法や日々のクレームの受け方など具体的なお話だけでなく、従業員に対して「過大に期待しない」ことや、「会社のために」頑張らせるのではなく「自分のために」頑張ってもらえるような声かけや仕事の組立が大事など、経営者側が心掛けていることもお話いただきました。

管内の農業法人の誰もが働きやすく「選ばれ続ける会社」となって担い手が確保できるよう、今後も当普及センターは職場改善に向けた支援を行ってまいります。

### ○女性農業者ステップアップ講座「学んで、食べて、作って、まるごと大豆セミナー」を開催しました 令和6年3月 27日 美里農業改良普及センター



令和6年2月15日に岩沼市ハナトピア岩沼を会場に、当普及センター管内の女性農業者等、9人が参加し、女性農業者ステップアップ講座「学んで、食べて、作って、まるごと大豆セミナー」を開催しました。

女性農業者は、地域農業において重要な役割を担っており、近年では加工場の整備や農産加工品のネット販売など、新たに6次産業化に取り組む若手女性

農業者が増えてきています。

このような中、仙台市若林区で女性が経営の一部門を主体的に担って実践的に活動している、農事組合法人仙台イーストカントリーの佐々木千賀子氏と佐々木こづ恵氏を講師に招き、「女性が輝く、6次産業化への取組」と題して事例紹介をしていただきました。また、今回のセミナーは、「大豆」をテーマに栽培や歴史、栄養成分、大豆の利活用について学び、さらに2人の講師からの直接指導の下、ポリ袋に入った煮大豆を手で潰し、塩と合わせた麴と混ぜ合わせ、味噌を仕込みました。参加者の多くは、味噌づくり初体験で、これまで交流機会がなかった女性農業者同士、情報交換しながら作業する姿が見られました。

普及センターでは、今後も女性農業者が自信を持って経営や組織活動に参画するための支援を行ってまいります。

### ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

#### ○農業用ドローンの活用に向けた相談会を開催しました 令和6年3月 15日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年3月8日気仙沼市の農業法人1社を対象に、農業用ドローンの活用に向けた相談会を開催しました。

県のアグリテックアドバイザー派遣事業を活用し、株式会社ケーエスに薬剤散布の実演をしてもらい、その後規模に応じた機体性能や費用対効果、必要な資格等について、情報・意見交換が行われました。

中山間地域での効率的な作業のために導入を検討する生産者からは、ドローン自体の作業性の良さやRTK-GNSS基地局のデータを活用した自動飛行に対する期待が寄せられ、アドバイザーと熱心な意見交換が交わされた結果、活用に向けた方向性が整理されたようでした。

宮城県では、アドバイザー派遣の他、農業用ドローンをはじめとしたアグリテック推進のため、トラクターや田植機の自動操舵・直進アシスト等にも活用可能なRTK-GNSS基地局のサービスを本年度から提供していますので、御活用ください。

**○町内産堆肥で黄金色の麦浪をつくろう！**  
**令和6年3月26日**  
**美里農業改良普及センター**



昔からの格言で「米は地力で、麦は追肥で作る」と言いますが、実際には、麦作にも地力は重要です。地力を上げるには堆肥など有機物を水田に入れることが1番ですが、管内で多い「水稲－麦－大豆」などの輪作体系では、ほ場の準備期間が短く、作付け前に堆肥の散布期間をとれないことが課題でした。

そこで、3月18日、涌谷町内のほ場において、生育中麦への牛ふん堆肥の散布試験が行われました。越冬後のまだ小さい麦の上から堆肥を散布する大胆な試みですが、他県では麦や後作大豆の収量が向上するという試験結果も出ています。当日は強風でしたが、風に負けない大きなマニュアルスプレッダーが登場し、無事に2t/10aほどの堆肥が散布されました。

今後、普及センターでは、堆肥が麦や後作物に与える影響を調査していきます。

**○美里町の農事組合法人みらいす青生で、ほ場管理システムの研修を行いました！**  
**令和6年3月27日**  
**美里農業改良普及センター**



美里町の農事組合法人みらいす青生は、水稲・大豆・麦の土地利用型作物の生産に加え、露地園芸作物の生産に取り組んでいる地域を代表する農業法人です。

R T Kシステムやドローンを導入する等、アグリテックを積極的に活用し、農作業の効率化を進める一方で、経営面積の拡大に伴い、管理するほ場数が増え、ほ場ごとの栽培履歴の管理や共有の効率化が課題でした。

そこで、「みやぎアグリテックアドバイザー派遣事業」を活用し、3月13日・21日の2日間、ほ場管理システムの社内研修を行いました。

13日はほ場管理システム「Z-G I S」及び衛星データを活用した営農支援システム「ザルビオ」について、21日は栽培管理支援情報サービス「S A K U M O」について、システムのアドバイザーから説明がありました。

研修ではそれぞれのシステムを実際に操作しながら、特徴や操作性、注意するポイント等について説明がありました。参加者は、疑問点を質問しながら、法人における効果的なシステムの導入方法について理解を深めていました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、アグリテックの推進に向けて支援を行っていきます。

**④園芸産地の育成・強化支援**

**○令和5年度にんにく産地視察研修会を開催しました**  
**令和6年3月1日**  
**仙台農業改良普及センター**



令和6年2月27日、管内にんにく生産者7人を対象に、令和5年度にんにく産地視察研修会を開催しました。県内1位の生産量と販売額を誇るJ Aみやぎ登米にんにく部会の生産者ほ場を視察し、高品質なにんにく生産に向けた様々な取組について学びました。特ににんにくの土作りや肥培管理、長期間の出荷に向けた貯蔵方法について関心が高く、活発に意見交換が行われました。また、現地生産者と直接接がりを持てたことから、今後の情報交換等も産地を越えて行っていきたいという声がありました。

にんにくは、高収益作物の導入品目や、鳥獣害対策の観点からも今後の栽培面積の拡大が見込まれており、来年度以降も管内で新たな生産者が取り組む予定となっています。

普及センターでは、高品質なにんにく生産に向けて、巡回の中で生育状況を確認し、栽培技術支援を行ってまいります。

## ○利府梨部会で新品种・新技術に関する研修会を開催しました！

令和6年3月4日

仙台農業改良普及センター



令和6年2月27日、J A仙台利府支店を会場に利府梨部会員を対象とした研修会を開催し、23名が出席しました。

講師は、仙台ターミナルビル株式会社観光農業部の菊地秀喜専門監をお招きし、「期待される新品种・新技術など」について、J Rフルーツパーク仙台あらはまで栽培している品種の特徴や、最新の梨栽培様式であるV字ジョイント栽培について、実際に栽培を手掛けている立場から詳しくお話を伺うことができました。このほか、最近の気候変動の影響を受けて、全国の産地の動向や生産予測の話題にも触れていただき、これからの梨栽培に向けて有益な情報を教えてもらいました。講師の生産者目線に立った話は大変分かりやすく、参加者は熱心に聴講している様子でした。

また、利府町農林水産課からは来年度から活用できる「果樹経営支援等対策事業」の説明が行われ、参加者から期待の声寄せられました。普及センターからは凍霜害対策について、発生が予想されることを前提とした早め早めの準備を呼びかけました。さっそくJ Aの購買窓口でも購入できるように担当者に依頼する場面も見られました。

今後も普及センターでは、利府梨の生産振興に向けて支援を継続してまいります。

## ○いちじくせん定講習会が開催されました

令和6年3月4日

大河原農業改良普及センター



J Aみやぎ仙南蔵王地区いちじく部会では、生産振興に向け、生育ステージごとに講習会等を開いており、今回は令和6年2月20日に現地ほ場でせん定についての実習を行いました。

蔵王町は古くからのいちじく産地で、長年の栽培経験を持つ人が多い部会ですが、栽培経験が少ない人もいます。講習会では、初心者からベテランまでの栽培者が集まり、普及センターからの説明と実技を見た後、参加者相互で検討しながら実際にせん定作業を行いました。

今後も部会では講習会等を計画しており、普及センターではJ A等と連携して、継続的な支援に取り組んでいきます。

## ○JA名取岩沼ハウス胡瓜部会・促成胡瓜現地検討会が開催されました

令和6年3月6日

巨理農業改良普及センター



令和6年2月20日、J A名取岩沼ハウス胡瓜部会の促成胡瓜現地検討会が開催され、部会員、関係機関合わせて約20人が参加しました。

部会員のうち、法人1件、個人生産者3件のほ場を巡回し、それぞれの生育状況を確認しながら、今後の管理について検討を行いました。12月中旬から1月中旬にかけて定植を行っているほ場では、暖冬の影響もあり、生育は順調に進み、収穫が始まっていました。1月中旬以降に定植を行っているほ場では、整枝、誘引が丁寧に行われ、もうすぐ収穫を迎える状況になっていました。次第に春が近づき日射量が徐々に増える中、急な高温や、低温となる中、ハウス内の環境を整える上で細やかな管理が必要となっています。

講師を務めた埼玉原種育成会の松本氏からは、今後の温度や湿度管理のほか、樹勢を維持するための肥培管理等について御指導いただき、普及センターからは病虫害防除の徹底、高温対策等について指導しました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの収量向上と安定生産に向けて支援してまいります。

## ○大崎地域花き研修会を開催しました

令和6年3月12日

大崎農業改良普及センター



令和6年3月8日、大崎地域の花き生産者を対象に、研修会を開催しました。宮城県農業・園芸総合研究所から、「夏の暑さに対応した夏秋ぎくおよびトルコギキョウの栽培技術」、「暑さに負けない害虫対策-オオタバコガの防除対策-」と題し、今年の夏秋期の栽培に向けた技術や防除について講義を受けました。出席者から講師へ活発に質疑が行われるなど、講義への関心の高さが伺えました。

これまで各直売所等を対象に研修会を開催してきましたが、大崎地域の花き生産者を広く対象とした集合型の研修会をはじめで、所属を超えた交流の場としても盛り上がっていました。

普及センターでは、今後も大崎地域の花き栽培の支援に取り組んで参ります。

### ○JA みやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました

令和6年3月13日

登米農業改良普及センター



令和6年3月11日、登米市迫町の2ほ場でJAみやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました。部会では毎年この時期に、前年秋に定植され越冬したそらまめのほ場で現地検討会を開催し、春を迎えて生育を再開するそらまめの状況と今後の管理について確認を行っています。

当日、普及センターからは気象経過や病害虫防除等について説明しました。また、それぞれのほ場の管理状況を確認し、生産者同士で管理作業の工夫など情報交換が行われました。

### ○「本州のポテト王国 登米」を目指して研修会を開催

令和6年3月15日

登米農業改良普及センター



安定的な需要があることや機械体系が確立していることなどにより、水稻に代わる高収益作物として加工用ばれいしょが注目されています。登米市の令和5年産の栽培面積は19.5ha、生産者は9名で、県

内2番目の加工用ばれいしょ産地となっています。

産地拡大の機運と支援の必要性が高まっていることから、3月12日に登米地域園芸特産振興研修会「本州のポテト王国 登米を目指して」を開催しました。

県園芸推進課と普及センターから情報提供を行った後、生産者、実需者、JAみやぎ登米、登米市、県の各担当者によるパネルディスカッションを行いました。パネリストからは、土質改善や選別機導入による作業時間短縮の必要性、農地集積に対する地域の理解、関係機関が同じ方向を目指して進むことの重要性に対する意見が出されました。

実需者からは「儲かっている姿を見せることが拡大につながる。ぜひ宮城県で生産を広げてほしい」との意見も出され、パネリストの想いが伝わるディスカッションとなりました。

普及センターでは、今後も関係機関とともに加工用ばれいしょへの支援を行ってまいります。

### ○いちご新品種の食味アンケート調査を実施しました

令和6年3月15日

仙台農業改良普及センター



宮城県では、いちごの新品種の育成を行っており、「もういっこ」(平成20年)、「にこにこベリー」(平成29年)に次ぐ県オリジナルの新品種の登録を目指しております。

令和6年3月2日、当普及センターでは、仙台市荒浜にあるJRフルーツパーク仙台あらはまのいちご摘み取り客の方々にご協力いただき、県が育成した新品種候補の食味に関するアンケート調査を実施しました。

新品種候補については、果実が大きく、縦溝が少ない綺麗な形で、色が鮮やかな赤色であることが特徴です。アンケートにご協力いただいた方々からは、「甘みが強く、ジューシーで食べ応えがある」「果実が大きく、形が美しいので食べる前からワクワクした」といった評価をいただきました。

普及センターでは、今後、新品種がデビューすることになった際は、栽培上の特性や食味の特徴なども含め、生産者に情報提供しながら支援を行ってまいります。

### ○加工用柿研修会が開催されました！

令和6年3月15日

大河原農業改良普及センター

令和6年3月6日に大河原農業改良普及センターと丸森町農業創造センター共催で加工用柿研修会を

開催しました。

研修会では、宮城県農業・園芸総合研究所の職員から、柿の重要病害である炭そ病と落葉病の防除方法について講義をいただきました。また、他産地での柿のジョイント栽培に関する情報提供がありました。普及センターからは、加工用柿生産者を対象に実施したアンケート結果に基づいて、過去3カ年の被害状況や令和5年産の栽培管理について報告し、令和6年産に向けた病虫害防除の重要性や気象条件に対応した管理等について指導しました。さらに、暖冬で凍霜害が心配されることから凍霜害対策の注意喚起を呼びかけました。



参加者は時折メモを取りながら熱心に研修を受けていました。

普及センターでは、今後も柿栽培への技術支援を行っていきます。

### ○村田町でそらまめの栽培講習会が開催されました 令和6年3月19日 大河原農業改良普及センター



令和6年3月15日にJAみやぎ仙南村田支店で、JAみやぎ仙南村田地区事業本部が、みやぎ仙南村田地区そらまめ部会を対象に、そらまめの不織布除去後の管理方法について、講習会を開催しました。

講習会では当センターから、肥培管理や整枝、病虫害防除等について説明を行いました。また、講習会終了後に、ベテラン生産者の現地ほ場視察を行い、生育状況について説明しました。

ほ場を見ながら生産者同士で、活発に意見交換や質問し合う様子も見られました。

普及センターは、今後も村田町におけるそらまめの生産量増加に向けた支援を続けてまいります。

### ○令和6年産加工用ばれいしょ栽培に向け、講習会が開催されました 令和6年3月25日 登米農業改良普及センター



令和5年度の登米市内の加工用ばれいしょの面積は19.5ha、生産者は9名となっており、今後も増加が見込まれる園芸品目です。例年、3月下旬頃から始まる種芋の植付けに向け、3月4～5日、JAみやぎ登米南部園芸センターにおいて種芋の消毒が行われました。

4日の午後には、登米ぼてと組合員と関係者が出席し、加工用ばれいしょ栽培講習会が行われました。カルビーポテト株式会社からの担当者からは、種芋管理の方法や、令和6年の栽培に向けた排水対策等の改善点の説明があり、普及センターからは農薬の効果的な使用方法について説明しました。また、普及センターからは、選別機導入のための試算や、登米地域の加工用ばれいしょ中長期計画についても説明し、参加者からは「いろいろ課題はあるが、今後も関係機関と連携しながら取り組んでいきたい」という声がありました。

普及センターでは、今後も加工用ばれいしょ栽培の支援を行っていきます。

○「南三陸大粒(おおつぶ)ぶどう協議会」の総会  
が開催されました  
令和6年3月29日  
気仙沼農業改良普及センター



昨年11月に、南三陸町産食用ぶどうの認知度向上や有利販売を図ること等を目的として生産者9名により設立された「南三陸大粒(おおつぶ)ぶどう協議会」の令和6年度通常総会が令和6年3月13日に開催されました。今回の総会では、令和6年度からぶどうのブランド化に向けた取組を行うにあたり、活動計画やブランド化の基準となる要領等について審議が行われました。審議の結果、ブランド化の基準として、町の資源を活用した土づくりや環境負荷低減の取組等を盛り込んだ栽培・販売要領が制定され、令和6年産から要領に沿って栽培・販売されたぶどうを新たなブランド品としていくことになり、ブランド化に向けた最初のスタートを切りました。参加した生産者からも今後の取組に対する前向きな声が多く聞かれました。

普及センターでは、南三陸町のぶどうの生産振興につながるよう、継続して支援を行ってまいります。

○間もなく出荷！河北の「葉せり」現地検討会開催！  
令和6年3月29日  
石巻農業改良普及センター



令和6年3月27日、間もなく収穫を迎える葉せりの現地検討会が、JAいしのまきセリ部会の主催で開催されました。

現地検討会は生産者や関係機関の職員など20人程が参加し、各ほ場を廻って生育中の葉せりの状況確認や病害虫管理の情報共有等を行いました。

生育は順調で、草丈が20～30cmに伸びた葉せりは早ければ4月10日頃から順次出荷されます。

河北の葉せりは、冬季に出荷される根せりとは異なり、そのシャキシャキとした食感が愛される食材

です。地元直売所などでお見かけの際は、是非手にお取りください。

今後も普及センターでは、良品質な河北せりの安定生産を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○先進地の現地視察を行いました  
令和6年3月1日  
大崎農業改良普及センター



大崎市岩出山の下真山地区(小坪工区、黄金田一部工区、黄金田二部工区)では、農地整備事業を契機とした地域の営農体制づくりを進めており、地域内で農地整備事業制度の理解をより深める目的で、令和6年2月22日現地視察研修が行われました。当日は、地区の担い手等20人が参加しました。

視察先となった(株)上小田代(岩手県奥州市)は、下真山地区と同様に中山間地域で、農地整備事業を契機に営農組合から株式会社へと経営を発展させてきた法人です。対応していただいた伊藤社長のお話を参加者は熱心に聞き入っていました。そして、加工品の製造や販売、後継者や担い手についていろいろと質問をしていました。

下真山地区では、法人化に向けた話し合いが始まっている工区もあることから、将来に亘り下真山地区の営農が継続できるよう、普及センターでは地区の中心となる担い手の支援をしていきます。

○水稻多収品種「ふくひびき」の栽培方法について  
講演しました  
令和6年3月4日  
登米農業改良普及センター



令和6年以降、飼料用米一般品種の交付金が段階的に引き下げられることから、生産者の所得確保に向け、登米市でも多収品種を導入する動きが出てき

ています。

令和6年2月26日、JAみやぎ登米主催の「ふくひびき栽培講習会」が開催され、生産者、関係機関合わせて約70名が出席しました。

ふくひびきはまだ本県における栽培事例が少ないため、普及センターからは、現段階でベターと思われる栽培方法や品種特性などについて説明しました。

説明後は、複数の出席者から、種子消毒やひとめぼれより収穫時期を遅らせる方法等について質問があり、生産者の関心の高さが伺える講習会でした。

普及センターでは、今後も水稻の栽培支援を行っていきます。

## ○石巻河南地区で麦の現地検討会が開催されました！

令和6年3月4日

石巻農業改良普及センター



令和6年2月28日にJAいしのみき主催で石巻河南地区の麦現地検討会が行われました。4組織4ほ場を巡回し、幼穂長の測定により想定される生育状況から麦踏み可否や幼穂形成期追肥の時期（幼穂長2～3mm）の指導を行いました。4ほ場の幼穂長は1.75～3.5mmで例年より生育は早く順調に生育しており、すでに幼穂形成期始期を迎えているほ場も多く見られました。今年は気温が高く推移しており、麦の生育ステージの前進に伴い栽培管理の時期が早まることが予想されるため、参加者は今後の作業日程、追肥についてなど検討を行っていました。

石巻管内では、令和6年産で大麦が約860ha、小麦が約170ha作付けされています。昨今の国際情勢の影響により国産麦の需要が高まっていることから、当普及センターでは、今後も高品質な麦の安定生産に向けて栽培支援を行っていきます。

## ○大豆講習会が開催されました

令和6年3月7日

仙台農業改良普及センター

令和6年2月28日に、JA新みやぎあさひな統括営農センター主催の大豆栽培講習会が開催され、大豆生産者約30名が出席しました。内容としては、令和5年産大豆の実績や令和6年産に向けた栽培管理について等でした。

普及センターからは、令和5年産の乾燥害や青立ちの発生、新優良品種「すずみのり」等について説明しました。また、全農から販売情勢、メーカーからノンプラスチック肥料、アレチウリやアサガオ類の防除について説明がありました。



講習会では参加者が熱心にメモをとる様子が見られ、「新しい除草剤を知ることができた」というコメントもありました。質疑応答の時間には、アサガオ類やアレチウリの防除方法等についても詳しく聞くことができ、参加者にとって実りある時間となったようです。

普及センターでは今後も大豆の収量向上に向けて支援をしてまいります。

## ○JA新みやぎ栗っこ米(こめ)3部会通常総会・米づくり研修会が開催されました

令和6年3月13日

栗原農業改良普及センター



令和6年3月6日（木）に、JA新みやぎ栗っこ米3部会通常総会・米づくり研修会が開催され、米（こめ）戦略部会、ブランド米生産部会、多収穫米生産部会の代表者13人が参加しました。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、初めての対面での開催となりました。

令和6年に各部会では、肥料・農薬の展示ほ設置による試験や食味コンクールの実施、多収穫栽培コンテストへの参加、栽培講習会の開催などについて計画されています。

総会終了後には、米づくり研修会が開催され、令和5年の水稻の作柄、令和6年産の栽培のポイントについて当普及センターから説明を行いました。近年、高温・少雨など異常な天候になる年もあり、参加者は熱心に説明を聞いていました。これから水稻の種まきや水田の準備が始まることから、参加者からは「種籾の浸漬時や催芽時の適正温度」や「土壌分析に用いるサンプルの採取方法」などについて質問が出され、会場内で活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、今後も生育調査に基づいた情報の発信など、水稻の収量・品質の安定生産に向けて支援してまいります。



**○大豆種子生産物審査が終了しました**  
令和6年3月18日  
登米農業改良普及センター



登米管内には「ミヤギシロメ」約29ha、「タチナガハ」約16haの大豆採種ほが設置されており、2法人1組織が管理しています。

令和6年2月上旬から3月上旬にかけて、採種ほ場から収穫された生産物が種子として適正かどうかを判断する生産物審査を実施しました。

令和5年産大豆は、生育中盤以降高温が続き、特に開花期頃に高温・乾燥の厳しい条件であったため、例年より品質が劣るのではないかと懸念がありましたが、出荷された生産物は、品質が良好で、事前に調査した発芽率を含めて生産物審査は全量合格となり、農産物検査でも80%以上が正種子となりました。

普及センターでは、今後も優良種子生産について支援を行ってまいります。

**○令和6年度乾田直播栽培講習会が開催されました！**  
令和6年3月21日  
石巻農業改良普及センター



令和6年3月15日にJAいしのみき主催で令和6年度乾田直播栽培講習会が開催されました。

講習会では、全農宮城県本部から米穀情勢について、古川農業試験場から雑草イネ・漏生イネの発生状況と対策について、東北農業研究センターから乾田直播栽培における播種以降のほ場管理について講義がありました。全農宮城県本部からはコロナ明けで米の消費が拡大し、需要は高まりつつあると説明がありました。続いて、古川農業試験場からは、雑草イネ対策について、初期剤や中期剤を組み合わせた2～3回の除草剤処理が効果的であると説明がありました。東北農業研究センターからは、乾田直播栽培の管理について、砕土・鎮圧をしっかりと行い、播種床を整えることや播種後の鎮圧、フラッシングで出芽率

を確保することが重要であること、また、出芽前、入水前、入水後の3回の除草剤処理体系で雑草を抑えることで収量・品質が確保できるとの説明がありました。

本講習会には生産者、関係機関から約50人が参加し、今後の乾田直播栽培の管理について熱心に耳を傾けていました。

当普及センター管内の令和5年乾田直播栽培面積は979haとなっており、令和6年度も約1,000haの作付けが予想されます。当普及センターでは、これからも水稻の乾田直播栽培における栽培支援を行ってまいります。

**○稲作講習会で育苗のポイントを説明しました**  
令和6年3月22日  
登米農業改良普及センター



登米市は県内の主食用水稻面積の約15%を占める主要産地です。

JAみやぎ登米東部営農経済センターでは、高品質米の生産に向け、3月15日に稲作講習会を開催し、中田、石越、東和地区から約30名の生産者が参加しました。

普及センターからは、育苗時の温度や水管理の注意点、病害の防除を中心に、また昨年問題となった高温登熟による品質低下と表層はく離の要因と対策についても説明しました。出席者からは本田の水管理について質問があり、「米の品質向上のため、7月中旬から落水までは水を切らさない管理をしてほしい」と回答しました。

普及センターでは、今後も水稻の栽培支援を行ってまいります。

**○令和5年度「だて正夢」「金のいぶき」栗原地域栽培塾を開催しました！**  
令和6年3月26日  
栗原農業改良普及センター





令和6年2月27日（火）に、JA新みやぎ築館支店において、「令和5年度『だて正夢』『金のいぶき』栗原地域栽培塾」を開催したところ、管内の「だて正夢」「金のいぶき」生産者9名が参加しました。

今回の勉強会は、「だて正夢」「金のいぶき」の地域での安定した収量と品質向上のための、栽培技術の確立を目的に開催しました。

勉強会では、当普及センターから「令和5年産水稻の作柄」と「『だて正夢』『金のいぶき』の生育収量調査結果と栽培のポイント」について説明しました。

また、JA全農みやぎ米穀部生産出荷対策課より「『だて正夢』の実需から求められる品質」、株式会社タカシヨクの代表取締役社長より「『金のいぶき』の実需から求められる品質」について説明していただきました。

生産者からは、令和5年度に品質の落ちた「金のいぶき」の栽培方法や肥培管理について質問されるなど、有意義な勉強会となりました。

普及センターでは、今後も「だて正夢」「金のいぶき」の栽培支援を行っていきます。

## 2. 持続可能な農業・農村の構築

### ①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

#### ○キク親株管理研修会を開催しました

令和6年3月11日

大崎農業改良普及センター



加美町の薬菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人さんちゃん会が運営する農産物直売所です。

大崎農業改良普及センターでは、令和6年2月27日に、やくらい土産センター・山の幸センターと連携し、キクの親株管理についての研修を行ないました。参加者は、ベテラン生産者が実際に伏せこみを行っているほ場を見学しながら意見交換を行いました。

やくらい土産センター・山の幸センターでは、新規にキク栽培に取り組む生産者がいることから、初出荷につながるよう、継続的に支援していく予定です。

普及センターでは、今後も大崎地域の花き栽培の支援に取り組んで参ります。

#### ○「大島かぶ」を使った新商品が完成しました！

令和6年3月26日

気仙沼農業改良普及センター



「大島かぶ」は、気仙沼市大島で古くから栽培されており、その独特な見た目、かぶとは思えない甘みやホクホク感などの特徴があります。かつては救荒作物等として利用されていましたが、現在では、一部の島民のみが栽培する貴重な野菜となっています。

気仙沼大島地場産品出荷・販売組合では、地域資源である「大島かぶ」の存在を知ってもらうと共に、需要の拡大を目指すべく、新たな活用方法として新商品の開発を検討しています。そこで、フードコーディネーターの川島洋子氏を講師に、令和6年1月23日、2月6日、20日に商品開発研修会を開催しました。研修会では、組合員が試作した「大島かぶ」を使用した料理をベースに、講師からアドバイスをいただき、最終的に最も好評だった「砂糖煮」を活用した「大島かぶ蒸しパン」を完成させました。

「大島かぶ蒸しパン」は3月10日（日）に開催された、気仙沼大島ウェルカム・ターミナルのイベント「わかめまつり」で販売され、用意した100個の蒸しパンは午前中に完売してしまうほど好評でした。

普及センターでは、新商品の開発や生産拡大に向けた取組を引き続き支援してまいります。

## ②環境に配慮した持続可能な農業生産

### ○角田市ふるさと安心米生産組合協議会総会が開催されました！

令和6年3月25日

大河原農業改良普及センター



令和6年2月20日、角田市ふるさと安心米生産組合協議会の第35回総会が開催されました。

当協議会は、角田市内の水稲生産者約360人が会員となり、環境保全型の米づくりを行っている組織です。前身となる取組は、昭和にさかのぼり、平成5年の大冷害などの困難を乗り越え、首都圏や生活協同組合等の消費者とつながりを強くし、現在まで活動が続いているものです。

今年は、新型コロナの影響で4年間縮小していた総会行事を従来に戻し、関係者間の情報交換等が活発に行われました。

また、「みどりの食料システム戦略」に関する説明が行われ、制度の活用等が検討されました。県では、引き続き環境にやさしい持続可能な米づくりに関する支援を行ってまいります。

## ③大規模自然災害等からの復旧・復興

### ○長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現に係る成績検討会を開催しました

令和6年3月11日

石巻農業改良普及センター



令和6年3月5日に当普及センターのプロジェクト課題の成績検討会として「長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現に係る成績検討会」を開催しました。

本プロジェクト課題は東日本大震災による津波で被災した長面地区において、堆肥施用による土づくりと、効率的な施肥技術（堆肥および速効性と緩効性

肥料成分の組み合わせ）により、飼料用米の収量向上やWCS稲の作付により経営の安定を図ること、さらに乾田直播栽培技術等の省力化技術の導入により作期を分散することを目標としています。

本検討会にはプロジェクトの対象である株式会社宮城リスタ大川、農事組合法人みのり、株式会社ゆいっこの3法人、北上川沿岸土地改良区、JAいしのみき、東部地方振興事務所農業農村整備部が参加しました。当普及センターから堆肥施用実証ほ場や乾田直播実証ほの調査結果をもとに、土づくりや施肥改善による収量向上や、WCS・乾田直播栽培による作業分散効果等の成績を報告しました。対象の3法人は、土づくりにより収量が安定してきていることや作期が分散されて作業が効率的に進むこと、栽培技術が安定したことなどの効果を実感していました。

当普及センターでは、これからも津波被災地域での農業振興を支援していきます。

## 3. その他

### ①要請・緊急対策、その他

### ○令和5年度第2回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました

令和6年3月14日

亘理農業改良普及センター



令和6年2月6日に、当普及センターで今年度第2回目の亘理地域農業普及活動検討会を開催しました。

この検討会は、当普及センターで取り組む普及指導活動の実施状況について外部有識者等から活動手法や内容などの評価と課題解決に向けた助言をいただくため、年度内に2回開催するものです。

今回の検討会では、重点的に支援している活動の活動成果と令和6年度普及指導計画（案）について検討しました。

検討委員からは、「中長期計画の作成や新品目の導入成果を販売額で示せた点は評価できる」、「抱える課題に対する勉強会は生産者間の連携や情報の共有に繋がっている点は評価できる」、「来年度に向けて収量以外の作業工程数やロス率などの数値目標も欲しい」など、貴重な助言等をいただきました。

普及センターでは、委員の方々からいただいた評価や御意見等を来年度の普及活動に生かしてまいります。

○気候情報の活用促進に向けたセミナーを行いました  
令和6年3月25日  
大河原農業改良普及センター



令和5年の夏は、猛暑と少雨が重なり、県内全体で農産物の品質低下や収量減少などの影響がありました。また、当管内で生産の多い果樹では、温暖化により暖冬傾向が強まると春の開花時期が早まり、凍霜害の発生リスクが大きくなります。

このような中、大河原農業改良普及センターでは、職場研修として、気象庁の気候情報課 萱場予報官を講師に招き、気候情報の活用に関するセミナーを開催しました。

セミナーでは、気象庁のホームページで公表されている気温予測値の活用方法について、表計算ソフトで演習を行いながら指導をいただきました。

気温の予測値を使うことで、平年値を用いる場合より、水稻の刈取適期等をより正確に予想できることが体感できました。

普及センターでは、今回学んだことを積極的に取り入れ、今後の技術指導等を行っていきたいと考えています。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亙理>  
〒989-2301  
亙理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.206

発行日:2024年5月16日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp